吉川ご当主、柳井を公式訪問

政財界挙げて歓待

「花香遊」で香道あそびも

柳井はかつて岩国吉川藩の領地で御納戸（おなんど）と呼ばれた地でした。吉川氏は柳井の商工業を盛んにし、柳井津商人は隆盛を誇り、白壁の街並みが生まれたのです。

その地を、吉川氏第32代・吉川重幹（きっかわ・しげもと）当主が初めて公式に訪ねられました。3月21日に白壁の街並み一帯で開かれた花と香りをテーマとする春のイベント「花香遊（はなこうゆう）」に参加されたのです。

〝お殿様〟をお迎えしての初の行事となり、柳井市長をはじめ、地元の政治・経済界を挙げての歓待でした。

「花香遊」はお香の会や芸能祭り、きものの着付け、貝合わせ、投扇興など昔の遊びを楽しむイベントで、柳井市観光協会が毎年主催しています。今年で第12回を迎えました。

白壁の街並みにはかつての豪商たちの住まいが並んでいますが、中でも小田家は元禄元年（1688年）に商いを興し、最盛期には50～125石船を50艘も抱え、西日本有数の油商となった家です。

現在、小田家の屋敷は「むろやの園」＝県有形民俗文化財＝として一般開放されています。国内最大級の町屋の屋敷内には岩国藩の殿様来駕に備えて設えた「半閑舎」があり、この日はご当主を迎えての抹茶の接待がありました。

ご当主をはじめ、岩国市内で吉川氏のまちづくりや文化経済振興への貢献を顕彰する「岩国吉川会」（隅喜彦会長）の一行が柳井市に招かれたのは、山口県観光戦略会議議長の山本時博さんが「岩国も柳井もかつては同じ吉川藩。手を取り合って振興を図りましょう」と柳井市側に呼び掛けたことがきっかけです。観光協会（河村敬一郎会長）が正式に当主と吉川会を招待しました。

吉川重幹当主を中心に柳井を訪れた岩国吉川会のメンバーと歓待した柳井市の市長や観光協会長ら

むろやの園で開かれた香道の会で成績を発表する川畑さん

「むろやの園」で香道遊びを体験された吉川重幹当主

「プライベートで訪ねたことはあるが、公式に訪ねるのは初めて」という重幹当主を、柳井市の井原健太郎市長、市議会の中次俊郎議長、柳井商工会議所の藤麻功会頭、県観光連盟の松井邦明専務理事、小田家の現当主らが心から歓迎しました。一行は、むろやの園内を見学した後、お香遊びを体験し、泉山御流（せんざんごりゅう）の師範・川畑華香さんの指導で3種の香炉を回して順番を当てました。重幹当主は見事に的中させ、「さすがでございます」と他の参加者は畏れ入っていました。

白壁の街並みでは雅なあそびが行われている様子を楽しみ、地元の名産品を取り扱う店で買い物も行いました。醤油蔵では柳井市の名産になっている「甘露醤油」について江戸時代に醤油を藩主に献上したところ、「甘露」という評価をいただき、その名がついたという説明がありました。

柳井は「これを縁に、ぜひ柳井吉川会も立ち上げたい」と盛り上がっています。

横山でお香遊びの会

歴史ある雅な香りの世界

4月19日、岩国市横山の吉香茶室において、弥生会会員の川畑華香悠潺庵（ゆうせんあん）主による香道泉山御流千種会の「お香の会」が催されました。

当日は生憎の雨模様でしたが、歴史ある雅な香りの世界を楽しむことができました。

最近では大河ドラマ等で香道の場面が描かれることもあり、興味を持つ方も増えているようです。

千種会「お香の会」は広島で年5回催され、今年で19年になるとのことです。柳井でも年1回催されていますが、本拠地の岩国での会がありませんでしたので、「ぜひ岩国でも」との声が高まり、今年から春秋の年2回催されることになりました。

今回、参加の機会を逃して涙を飲まれた方は秋の会で雅な世界を楽しまれてはいかがでしょうか。